

*Mycoplasma bovis*の関与が疑われた 巨大腫瘍の摘出症例

(株)益田大動物診療所
長崎雄太、原知也、嶋田浩紀
足立全、岸本昌也、加藤大介

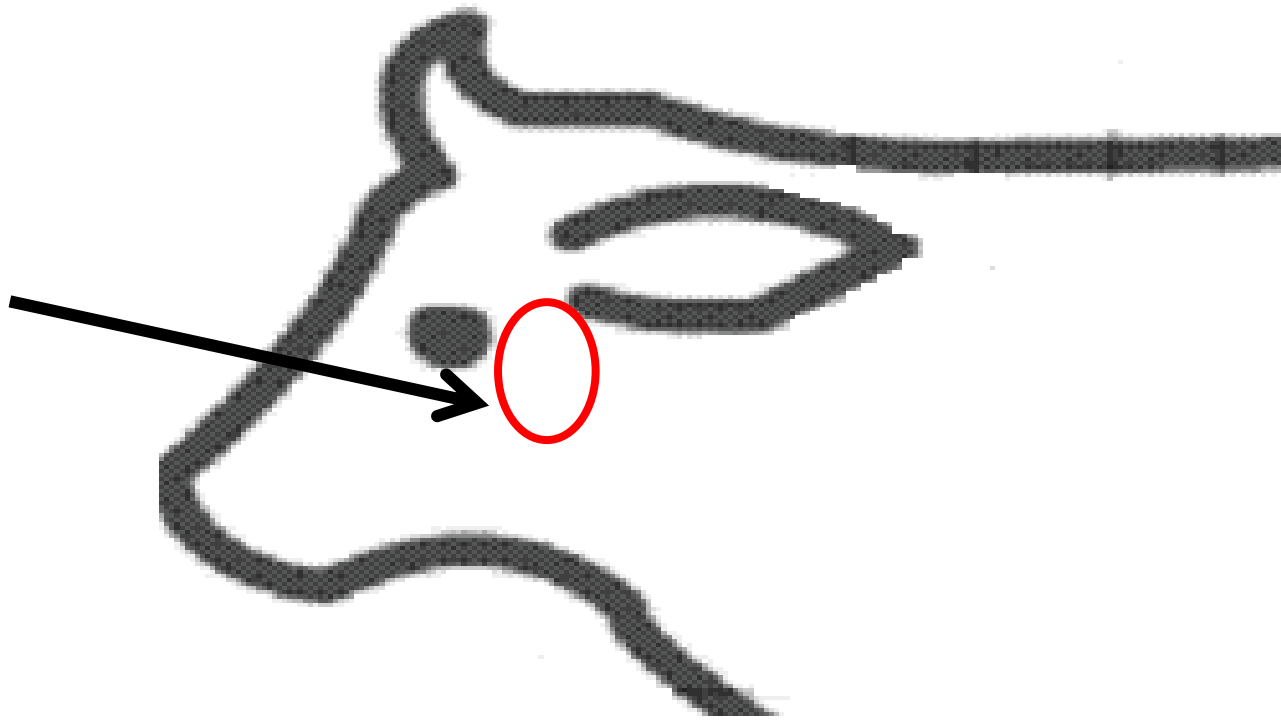
(株)益田大動物診療所



症例：県内の哺育・育成・肥育一貫農場にて飼養
H26.1.3生まれの黒毛和種の去勢牛
H26.9.16県内の酪農家から導入
導入前の育成期に呼吸器疾患で複数回の治療履歴



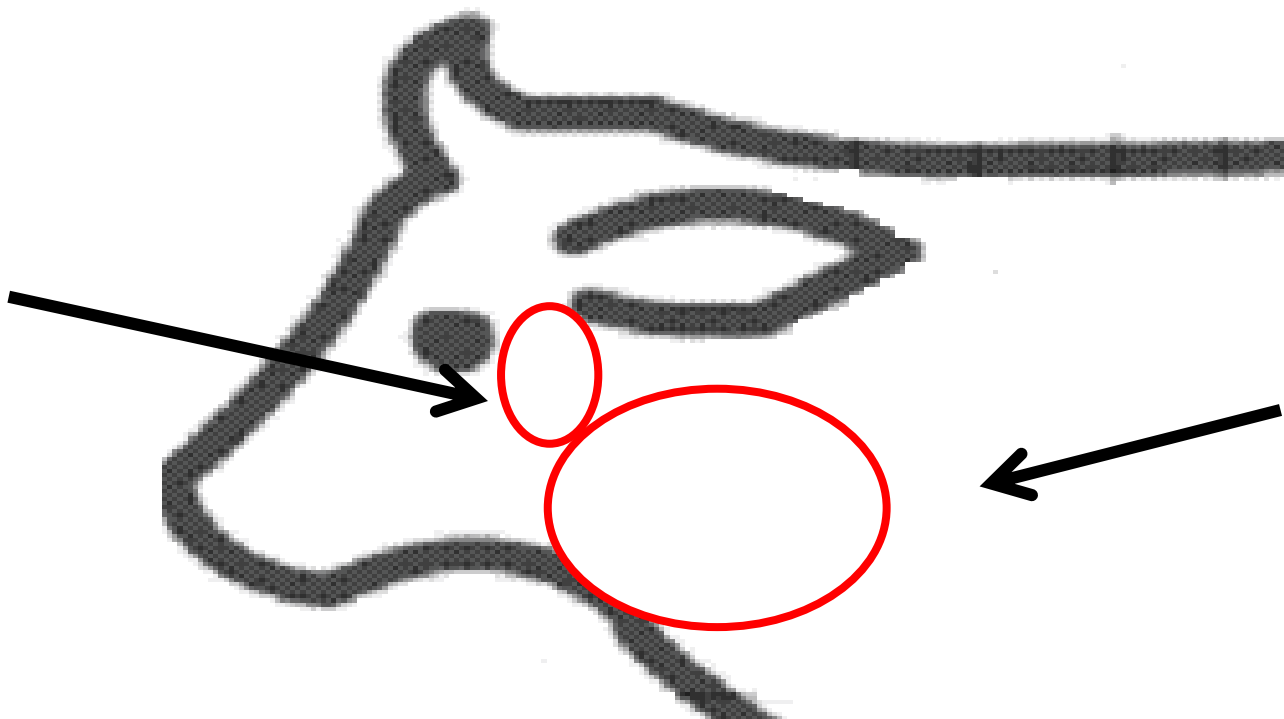
腫
脹
部
位



臨床経過: 導入後より耳下に直径約10 cmの腫脹を認める。
また気管喘鳴音を認め、発熱を繰り返した。
H26.12.14に耳下腫脹部を切開して排膿および洗浄を実施した。
以降、洗浄を続けるが切開創よりの排膿は継続した。
H27.2.16に手術を実施し、咽喉頭左側部より小児頭大の腫瘍を摘出した。



腫
脹
部
位



摘
出
腫
瘤

臨床経過: 導入後より耳下に直径約10 cmの腫脹を認める。

また気管喘鳴音を認め、発熱を繰り返した。

第75病日目に耳下腫脹部を切開して排膿および洗浄を実施した。

以降、洗浄を続けるが切開創よりの排膿は継続した。

第139病日目に手術を実施し、咽喉頭左側部より小児頭大の腫瘤を摘出した。



腫瘍摘出(耳下切開部よりアプローチ)



耳下切開部



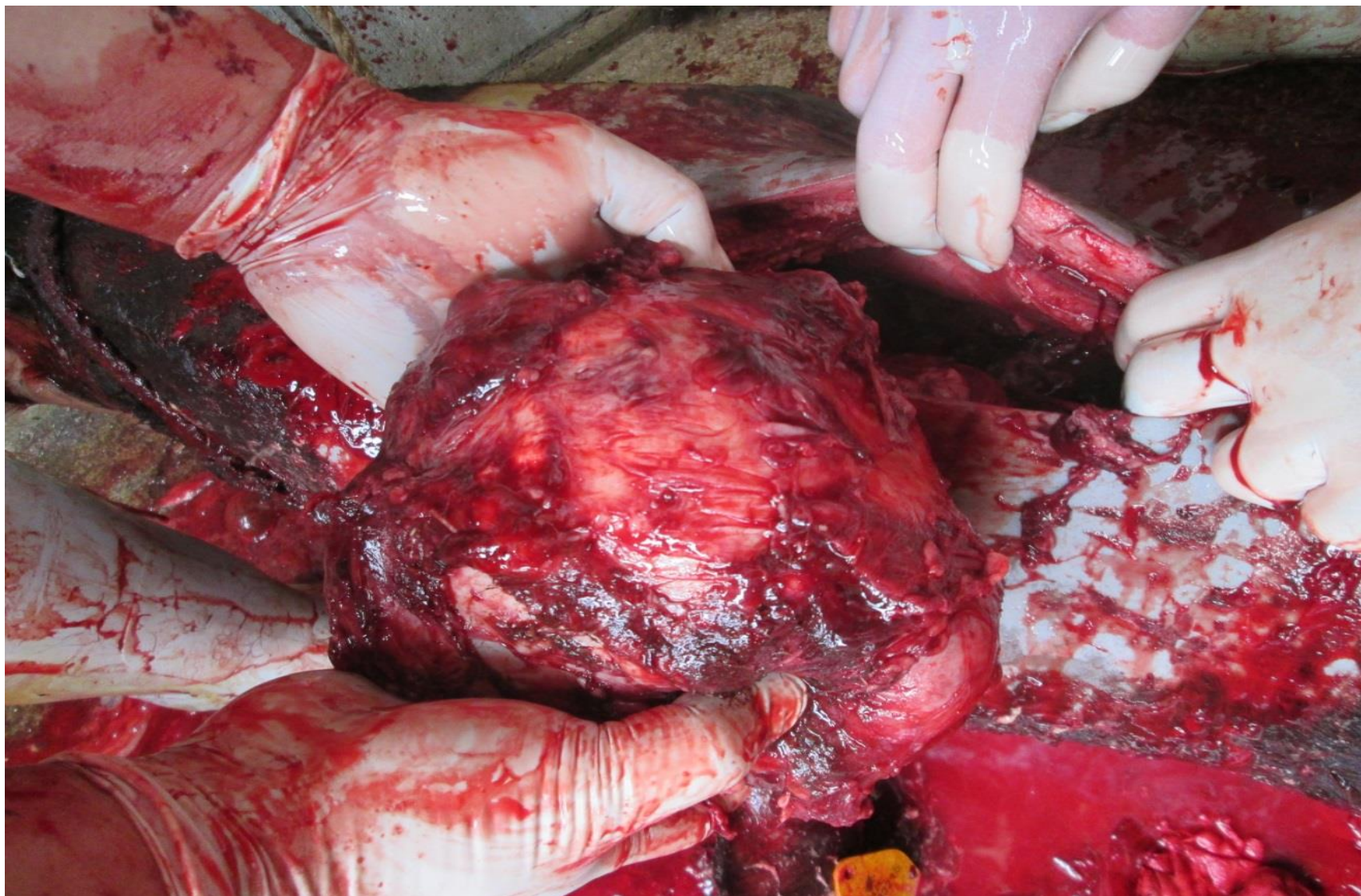
腫瘍摘出(下顎よりアプローチ)



胸骨舌骨筋



摘出腫瘤



摘出腫瘤(剖面)



細菌検査

直接鏡検：腫瘍内貯留液に含まれる膿を10%KOH溶液でほぐし、鏡検。

細菌培養：腫瘍内貯留液について以下の培養を実施。
分離菌をPCRで同定。

培地	培養方法
血液寒天培地	炭酸ガス培養
血液寒天培地	嫌気培養
GAM寒天培地	嫌気培養
DNA添加変法 Hayflick培地	炭酸ガス培養

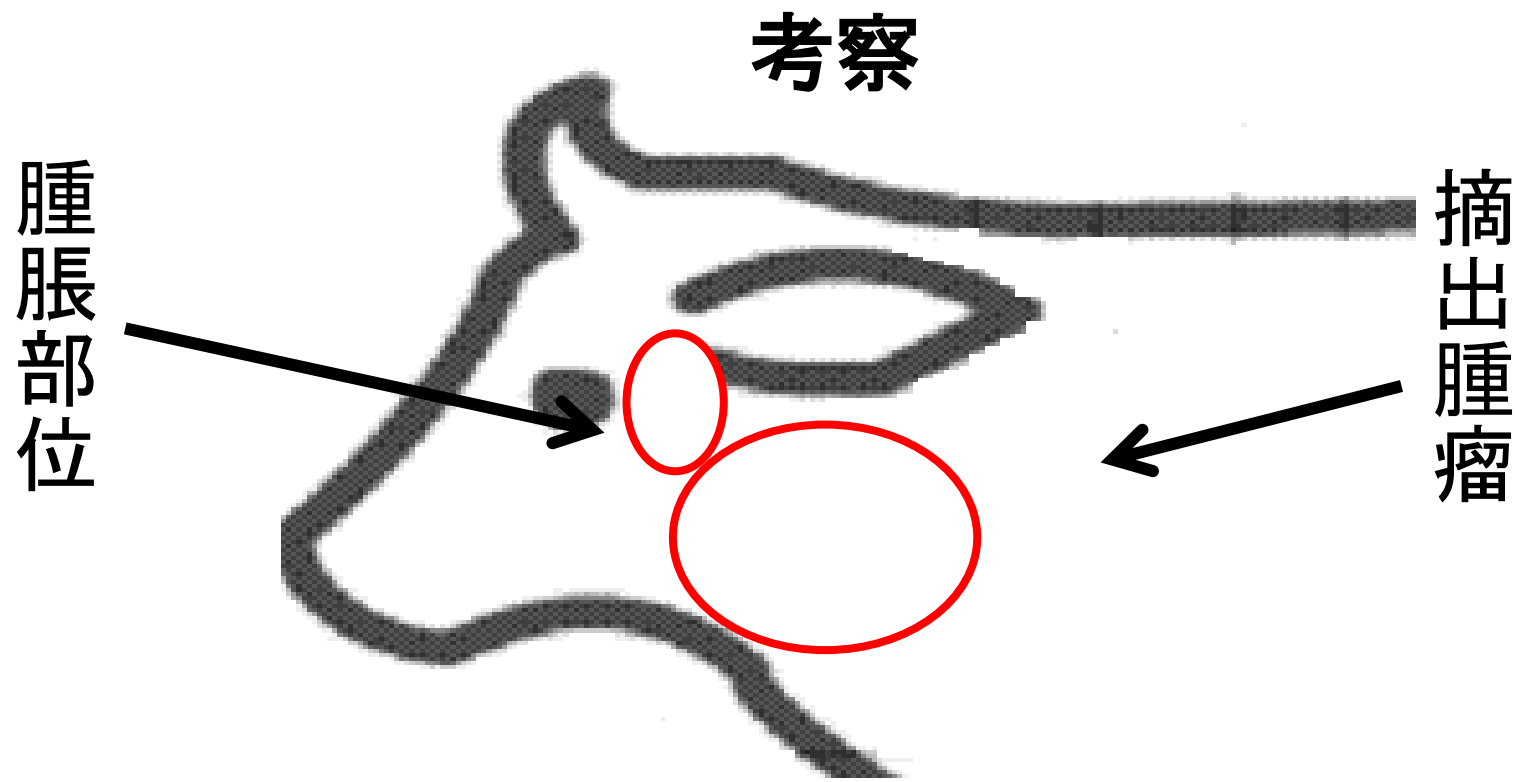


結果

直接鏡検⇒放線菌症および牛アクチノバチルス症で見られる
菊花状ロゼットは確認できず。

細菌培養⇒*Mycoplasma bovis*を分離。
その他有意菌は分離せず。

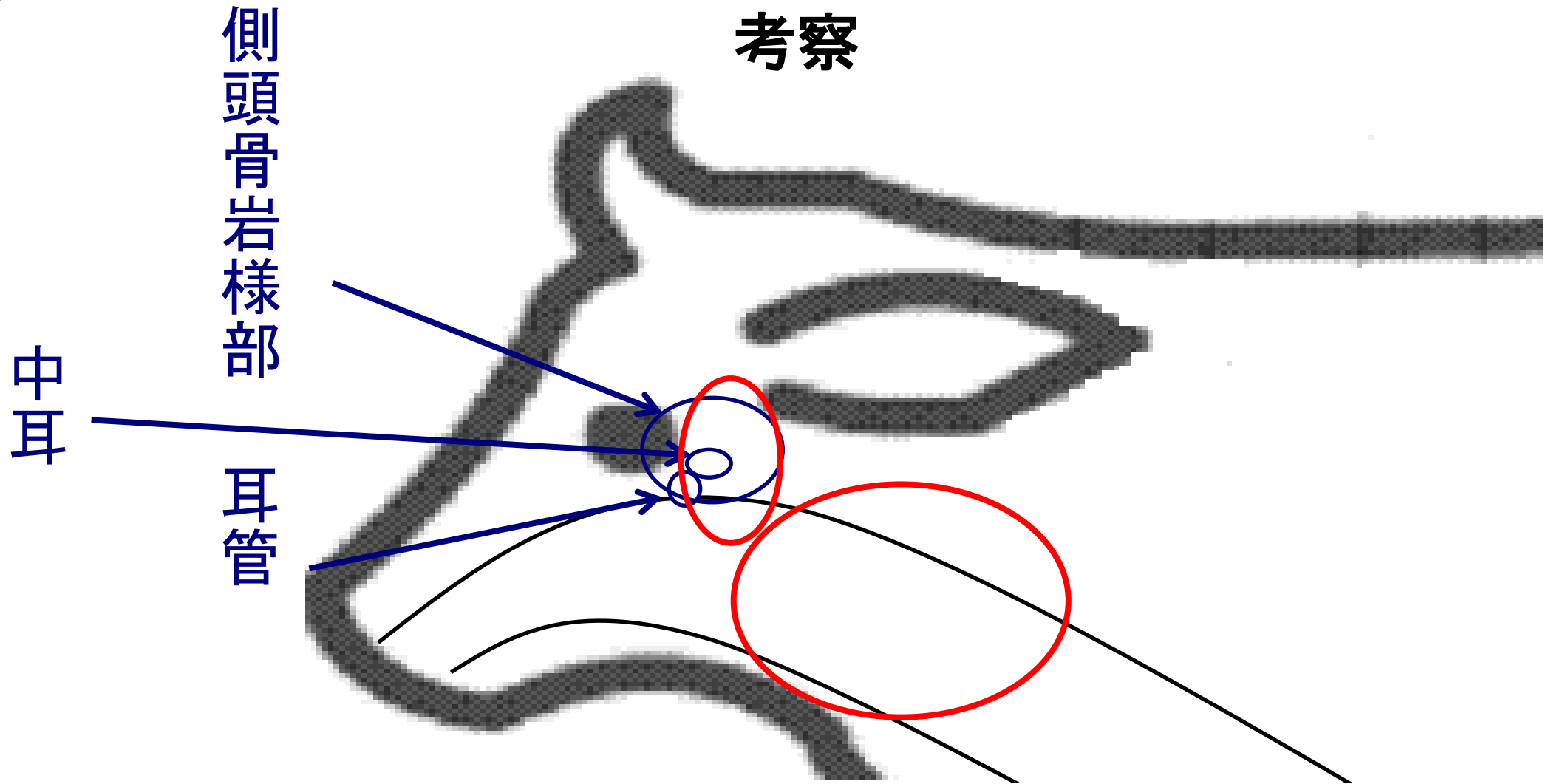




耳下から頸部にかけての腫瘤形成に*Mycoplasma bovis*が関与



考察



上部気道で増殖した*M. bovis*が耳管、中耳を経由して、側頭骨岩様部より感染した可能性



摘出後5ヶ月(生後18ヶ月齢)

